

月刊



合言葉は

「もったいない」♪



RECYCLE  
Design

No.139 2006. 4

<http://www.recycledesign.or.jp>

Eメールmail@recycledesign.or.jp

# リサイクルデザイン

## 特集 ちょっとむかしの3R



- 教えて聞かせて  
新横浜の空の下ミツバチが飛ぶ…P5
- リサイクルデザイナー…P6
- エコクッキング…P7
- 情報ファイル…P8  
18区に聞く！G30のわがまち自慢
- Mr.Rの3Rバンザイ…P9  
北部方面環境フェスタ

## ちょっとむかしの3R

お茶はペットボトルに入っていて、お肉や魚は発泡トレイにのっていて、牛乳は紙パック入り、というのが現代の常識のようです。でも、ちょっとむかしをふりかえてみると、そこには今とはずいぶん違った暮らしがありました。高度経済成長の始まりが昭和35（1960）年ごろ。それから10年あまりの間に大量生産、大量消費がもてはやされ、浸透していったのですが、その時代にはまだ“もったいない”という感覚や、使い捨てでないものが暮らしの土台を支えていました。そんな昭和の時代の3Rをたどってみましょう。

\*首都圏か地方か、都市部か農村部か、などの条件により違いがあることをお含みください

### 容器や包装は大切な家財道具でした

#### 容器は何度も使えるものばかり 素材も天然モノでした

容器包装、つまり何かを入れたり包んだりするものですが、戦後はもちろん、首都圏でも昭和30年ごろまではまだ次のようなものも大切に使われていました。

- ・液体を入れるもの  
びん、とっくり、水筒
- ・液体、固体を問わず入れるもの  
たる、かめ、つぼ、なべ
- ・包むもの  
経木、油紙、新聞紙、包装紙、竹の皮、わら
- ・まとめて入れて持つもの  
ふろしき、竹やつるを編んだ買い物かご

今ではすっかり影をひそめてしまったものもありますね。さて、これらは何でできているでしょう。木、金属、竹、わら、紙といった天然素材や、古来使い続けてきた陶器、ガラスといったなじみ深いものでできた容器包装だったのです。

修理を重ねて大切に  
永く使ったものが多く、それはれっきとした家財道具でした。

#### どんな場面で、どんなふうに使っていたのでしょうか

当時の暮らしを、容器包装にスポットをあててふりかえてみましょう。

- 《びん、とっくり、水筒を使う暮らし》
- ・ビールや酒、しょう油などは酒屋さんが家まで配達し、空きびんは引き取ってくれた。

・牛乳配達（びん入り牛乳）を利用している家庭が多かった。

・出かけるときは水筒を持参した。

《たる、かめ、つぼ、なべを使う暮らし》

・とうふを買いに行く時は、なべを持参していた。



- <sup>みそ</sup>
- 味噌は味噌屋で計り売りのものを買ひ、専用のたるに入れて使っていた。味噌は自家製という家庭も、特に農村部には多かった。
  - 漬け物や梅干し、その他常備菜のほとんどは自家製という家庭も多かった。
  - 《経木、油紙、新聞紙、包装紙、竹の皮、わらを使う暮らし》
  - 小売店で魚や肉を買うと、経木（木材を紙のように薄く削ったもの）や油紙、新聞紙で包んでくれた。
  - 八百屋では、野菜や果物を新聞紙でこしらえた袋に入れ、口をキュッとひねって渡してくれた。
  - コロッケなどの揚げ物売る総菜屋では、油紙で包んでくれた。

- 竹の皮は手軽な弁当箱代わりで、洗って干して何度も使った。
- 納豆は“わらづと”（キャンディー状にわらでくるんだもの）に包まれていた。
- 《ふろしき、竹やつるを編んだ買い物かごを使う暮らし》
- 買い物に行くときは、買い物かごを持って行った。

- 手みやげを持参する場合は風呂敷に包んで持って行った。どんな形のものも包めて、何度でも使えると重宝がられた。風呂敷はそうやって包装紙代わりになっただけでなく、巾着袋や手提げ代わりにと工夫次第で様々な使える便利品だった。



今、私たちが使っている容器包装は  
いつ世の中にデビューして、  
今はどうなっているのかな

#### ●プラスチック製容器包装

19世紀のなかば過ぎに、イギリスやアメリカでセルロイド（プラスチックの一種）が発見され、まもなく日本に伝わりました。昭和30年代になるとプラスチック製品が市場に出回るようになりましたが、当時は木や竹、ガラス、金属製品の安物代用品というイメージが強かったようです。しかしその後、容器包装材として生産量が急増。昭和35年に55万トンだったのが平成2年には1264万トンと、30年間で23倍に。

#### ●レジ袋

大量消費型の生活スタイルが広まった昭和50（1975）年前後から、レジ袋は急速に浸透していきました。軽くて丈夫な点が好まれて買い物かごに取って代わり、現在では年間で一人あたり300枚ほど使っている計算になり

ます。この事態に歯止めをかけるため、早ければ今年度中には、原則的に有料化される見込みです。

#### ●ペットボトル

プラスチック製容器包装の一種であるペットボトルは、昭和52（1977）年にしょう油の容器として日本デビューを果たしました。昭和57（1982）年からは清涼飲料水への使用も認められましたが、当時は生産量わずか2トン。それが平成12（2000）年には40万トン、17年には54万トンを超えました。

#### ●ワンウェイびん

ガラスと人類のつきあいは、3000年以上昔の古代オリエントに始まりますが、日本にガラスびんが伝わったのは江戸時代で、一般的に使われるようになったのは明治時代。一升びんという形でそれは登場し、酒やしょう油など

の量り売りに使われました。昭和に入ると使い捨てのワンウェイびんが増え始め、昭和49（1974）年ごろからガラスびんメーカーがリサイクルへの取り組みを始めました。

#### ●リターナブルびん（店に返して何度も使うびん）

牛乳や日本酒、ワイン、ビール、しょう油、油、みりん、酢……、かつてはどれもリターナブルびんで流通したのですが、最近はカンや紙パック、ペットボトルで代用されるようになりました。御用聞きを柱とする昔の商いが続けにくくなったことと深く関係しています。しかし近年、資源の有効利用や省資源について考える人が少しずつ増え、環境への負荷が少ないリターナブルびんを見直そうという動きが高まりつつあります。

# 衣類はみんなで順番に着回していました

衣類は“お下がり”をくり返し、  
最後はぞうきんに

衣類はきょうだいや親せき、近所の友だちと着回すのが当たり前でした。“お下がり”の衣類を、子どもたちはありがたく受け取り年下の子に回していったものです。ごくまれに、特別な理由

があって買ったり作ったりしてもらった衣類は宝物。汚さないように、ひっかけないようにと気を遣って着ていました。

何人もがそでを通した衣類は、少しずつすり切れたり、洗っても落ちないガンコな汚れが付いたりしていきます。アップリケやししゅうや継ぎ当てでそれをカバーし、物の寿命を長らえても、いよいよどうにも補修のし

ようがなくなってしまうたら……。最後にはぞうきんにしたり、あるいは数センチ角に小さく切りパッチワークの材料にしたり、工夫次第でまだまだ活かすあてはありました。それが、母親の腕の見せどころでもありました。



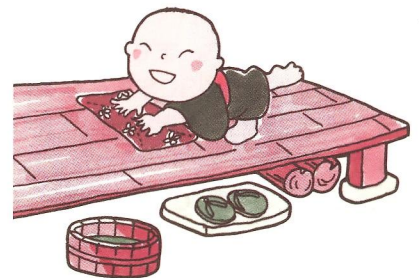
## たとえば“ゆかた”なら、5段階の用途がありました

昭和の中ごろから、着物はすでに子どもたちの日常着ではありませんでしたが、木綿のゆかたを例にとるとすばらしい用途の移り変わりがわかります。物不足だった第二次世界大戦後しばらくのあいだまで、ごく一般的に行われていた衣類のリサイクルの典型です。

1. 子どものゆかたはあらかじめ大きめに仕立てておき、成長に合わせて肩上げや腰上げをほどこき調節しました。
2. 腰上げも肩上げもすべてほどこいても、なお小さくて着られなくなったら、年下の子に回しました。

3. すり切れたり破れたりした部分には継ぎ当てをして、外には着て行かない寝巻きにしました。
4. 寝巻きとしてしばらく使ううちに、生地がたいへん柔らかくなってきます。すると、これは赤ちゃんのおむつにぴったりの素材。ゆかたはおむつに姿を変えました

5. おむつが不要になったら、最後はぞうきんに。たいへん吸水性の良いぞうきんとなって、家族みんなの役に立ちました。



おまけの話……かまどを使っていた家庭では、ぞうきんは最後の姿でなく、かまどで燃やし煮炊きの燃料という利用もありました。さらに江戸時代にさかのぼれば、かまどに残った灰は様々な用途に使える便利な物でしたから、灰買いという業者によって買われていきました。



# ものは職人たちの技で何度もよみがえりました

別冊「リサイクル今とむかし」より

## 江戸時代の3Rは

しょくあきんど

## 職商人によって支えられていました

かなり遠いむかしまでさかのぼって、江戸時代。その循環型社会を支えていたのは、使い古したものの回収・修理・再生をうけおった職人たちでした。職商人と呼ばれた彼らは、それぞれ専門として扱う物を細分化していたので、じつにたくさんの専門職がありました。木製のたるやおけのたがを直した**たが屋**、めがねの修理やレンズの下取りをした**めがね屋**、ちょうちんや傘の**張り替え屋**、

**かがみ研ぎ**、などなど。主に回収と販売を行う**紙くず拾い屋**、**古着屋**、**油屋**の**木拾い**、**肥え汲み**、などもありました。ものが生まれて使われて、何度か修理・再生されて土に戻るその時まで、人の知恵と手が何度も関わっていたのです。



直して使うということ、  
ちょっと試してみませんか？

さて、今の世の中を見てみましょう。紙くず拾いは“ちりがみ交換”となり、現在の古紙回収業者に引き継がれています。古着屋は古布回収業者や、“リサイクルショップ”などという呼び名に変わっています。古くなったたるやおけを買い集めた古樽買いは、現在でいうカン、びん、ペットボトルやプラスチック製容器包装の回収業者のご先祖さまとも思えます。包丁やナイフを研いでもくれる“研ぎ屋”さん、くつやかばんを直す皮革職人さんのいる店もあります。さて、みなさんは“横浜マイスター”という言葉聞いたことがありますか？ 横浜市が平成8年度から行っている事業で、市民の生活や文化を支える優れた技能をもつ職人を選び、その活動を支援後進を育てようというものです。横浜マイスターに選ばれた職人さんたちの中には、しみ抜きやかけはぎで衣類を再生するクリーニング師やかけはぎ職人、くつ職人や家具職人の名前も連なり、これがなかなか多いのです。

電話帳やインターネットを使い「修理」という項目で検索すると、9割がたが自動車の修理工場ですが、中には家具やくつ、衣類、アクセサリ、楽器などの修理店の情報もあります。もうだめだ、捨ててしまおうと思った時、インターネットなどで調べてみてはどうでしょう。直せば使えるものって、意外とたくさんあるようです。



びっくり その1

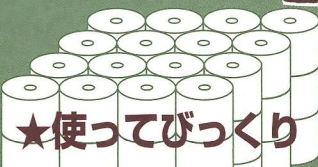
リサイクルボーイ・トイレtpーパーは、ごみが出ない芯なしロール。しかも専用ホルダーではなくふつうのホルダーで使えます。

びっくり その3

再生紙なのにソフト。バージンパルプのティッシュよりお肌にやさしい！愛用者の某リサイクルデザインの関係者いわく、「ティッシュを使うと鼻の下がごわごわになるのに、このトイレtpーパーだと大丈夫なの」（実話です）。

トイレtpーパーは再生紙があたりまえ。  
だってトイレに流しちゃったら再生できないんだから。

## リサイクルボーイ トイレtpーパー



★使ってびっくり

びっくり その2

手にするとずっしり重い。それもそのはず、ふつうのトイレtpーパー（シングルで60m）の2倍以上の長さ（130m）です。「使っても使ってもなくなるんですね」との声も寄せられるほど（もちろんいつかはなくなるけど）。

注文受付は1ケース（48コ入=6コ入りパック×8）より1ケース 3,528円（消費税・配送料込み）

※振込料はお客様のご負担でお願いします。

事業所、学校等はもちろん、お友達と分け合ってもお得！（横浜市の支出命令書も使えます）

●ご注文・お問い合わせは

横浜市資源リサイクル事業協同組合

電話 045・444・2531 FAX 045・444・2532

シングル芯なし130メートル1パック（6ロール）あたり価格441円



教えて、聞かせて

# 新横浜の空の下 ミツバチが飛ぶ



## 新幹線の 新横浜駅近く、

ベランダでミツバチを飼っていると聞いて、「えっ！こんな町の中で？しかもベランダとは！」ともうびっくり。どうしても見たくなり、その家を訪ねました。住宅街のふつうの家でした。二階に上げていただくと、そこは居間でした。

ベランダでミツバチを飼っている

チクッ！菅野美智子さんが白い帽子を渡してくださったのですが、間に合いませんでした。

巣箱から蜜を取り出す作業中なので、ミツバチは巣を守ろうとしたようです。ハチは黒い頭を見ると危険と思うらしく、いきなり攻撃されてしまいました。黒熊とまちがえられたのかしら？けっこう痛い。でも普通、ハチ類は巣をおそったり、かまったりしなければ、刺したりはしない昆虫だそうです。白い帽子は安全帽なのですね。

菅野秀雄さんは7年前、退職後にベランダで養蜂をしようと思いつきました。というのが北海道北見地方の農家に育ち、子どもの頃養蜂の様子を見ていたからなのとか。甘くておいしい蜂蜜が自分ちで取れるなんて、子どもにとってはワクワクだったのですね。菅野さんご夫婦は、広めのベランダに巣箱を置き、ミツバチの群れをそれぞれに入れて、箱ごとに巣を作らせました。ミツバチはたくさん集まって暮らす性質があり、社会昆虫と言われます。



煙でハチを静かにさせる



巣箱から巣板を取り出す ▶

## 特別の餌を与えられて

ひととき大きくなった女王蜂が卵をどんどん産んで、蜜を餌にして働き蜂がたくさん育ちます。働き蜂は春になると巣箱から一日数千回も行き来して、花から蜜や花粉を運んできます。蜜集めの他に、よそ者を入れないための門番、巣の掃除、蜂蜜作り、幼虫や女王バチの世話、羽をふるわせ巣を冷やすなどの係を分担しています。



## ミツバチは 体から

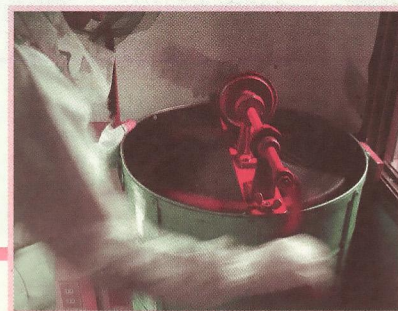
フェロモンという匂いを出して、「危ない！」「巣の仲間」とか言葉のかわりに伝え、丸く回ったり、まっすぐ、あるいはジグザグに尻ふりダンスをして花のある方向を教えたりもします。お尻にはロウ線があり、足をつかってロウを運び、口でかんで六角形の子ども部屋を作る左官（壁塗り）工事までするのです。ほんとに働き者ですね。あと女王蜂と交

尾をするのが仕事のオスバチがいます。

4月末から7月ごろまで、ミツバチは近くのグラウンドのクローバーや街路樹、サツキの植え込み、公園の花壇、アカシアの木などからせっせと蜜を集めてきます。菅野さんたちは、蜜の溜まった頃合いをはかって、煙をたいてミツバチを静かにさせ、巣板を取り出し、ドラム缶をたてたような、手回しの遠心分離器にかけて、蜜を取り出します。こしてビン詰めにし、ラベルを貼り、すぐ近くの自然

食品店やケーキ屋さんに卸します。名付けて『大倉山蜂蜜』、500メートルくらいの近距離でできた蜂蜜が、おいしいケーキになって売られているなんてすごいですね。

ササキ ミチコ



遠心分離器で蜜を分ける

大倉山蜂蜜の入手先：

東横線高架下、大倉山駅から徒歩1分、  
『みんなのお店』TEL 544-4021、  
『オーガニックスペースかれん』  
TEL 547-2190（季節限定）

注意：蜂蜜はミツバチの良い食べ物で、人間や他の動物も食べますが、1歳にならない人間の赤ん坊に食べさせてはいけません。



参考資料：

『ミツバチのなぞ』岩波書店、『ハチとフィールドと』思索社

船崎商事

## 船崎 健さん

「それまでの女性との付き合いかたは亭主関白きどりだったんです。でも彼女と出あって、いろいろ意見を交わすうちに、この人と結婚すれば俺は常に成長し続けることができると感じて結婚を決めました。お互い一人っ子なので、子どもは2人欲しいな」  
ただいま新生活に向けて準備中。



### プロフィール

1981年（昭和56年）生まれの24歳。生まれも育ちも磯子区のハマっこ。父、母との3人暮らし。今年6月に4年間付き合った彼女と挙式予定。

船崎商事は金沢区で自治会や学校PTAの古紙、アルミ缶の集団回収を行っています。船崎健さんは、本誌No.92のリサイクルデザイナーに登場した船橋新一さんの1人息子。2代目の船崎さん、当然のように跡継ぎとして育ってきたのでしょうか？

「母は教育熱心で、他の仕事に就かせたかったようです。父からは何も言われませんでしたね。私自身は中学、高校と部活でバスケットボールをやっていて、プロになりたかったんですが、高校3年のときに体を壊してプロの道はあきらめました。卒業してからは自分が何をしたいのかよくわからず、携帯販売員、フォークリフトの運転手、配管工など職を転々としていました。22歳のとき、いきな

り父から電話で『来月、1か月だけ手伝ってくれ』と言われて。はじめは短期間の手伝いのつもりでしたが、組合の中で同業者の方たちと話しているうち刺激を受け、この仕事は自分次第でどうにでもなるんだと気づきました。『船崎商事』を会社として大きくしたいと思ったんです。3、4か月ほどで正式に仕事を継ぐと決めました」

この仕事についてよかったと思うことは？

「自分で何とかしなければならぬ、という責任感がついたこと。人を雇って、その人の生活を守っていく大変さと大切さを実感できたこと。小さな会社なので大きくすることだけを考えればいい。いい経験をしていると思います」

何の迷いもなく、即答でした

身長185cm。プロになりたかったという船崎さんは、趣味がバスケット観戦、

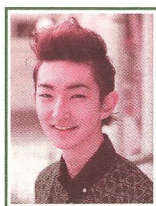
特技がバスケットと『バスケット馬鹿』を自認しています。仕事を継ぐのと同時期に地元の仲間に声をかけ、バスケのクラブチームを作り、毎週日曜日に練習に励んでいます。

「公式戦はなかなか勝てないんですが、練習試合は3勝0敗です。バスケがうまくなりたいですね。夢はきれいにダンクシュートができるようになることです。子どもができたならバスケをやらせたいな」

仕事でこれから取り組みたいことは？

「まず、大前提として父に楽をさせたい。それには仕事で父を超える技量を持って安心させないとダメなんだろうなと思います。従業員とトラックを増やして事業を拡大して、古紙以外の分野など、まだ手がけていないリサイクルの仕事にも挑戦し続けたいです」

この若くてまっすぐな力が明日のリサイクル業界を担うのだと実感しました。



雑誌の専属モデルもしていた。19歳。

こむすび

牛乳パックから  
生まれた紙ひも

小結くん で古紙をしばれば  
まるごとリサイクル



| 1巻きの長さ90m      |      | 価格（税込）               | 送料                   |
|----------------|------|----------------------|----------------------|
| バラ売り           |      | 1巻230円               | 1～6巻400円<br>7巻～ 600円 |
| 箱売り<br>（1箱50巻） | 1～9箱 | 1箱10500円<br>（1巻210円） | 価格に<br>含まれます         |
|                | 10箱～ | 1箱 8500円<br>（1巻170円） |                      |

※振込手数料をご負担ください

お申し込み 横浜市資源リサイクル事業協同組合  
お問い合わせ TEL045-444-2531/FAX045-444-2532

小結くん販売場所 ●横浜市青葉区・緑区・磯子区・都筑区・鶴見区・神奈川区・保土ヶ谷区・中区の区役所売店 ●グリーンバザール（南区）●コミュニティストアすすきや（戸塚区）●御菓子処おきな堂（神奈川区）●武松商事（中区）●村松商店（鶴見区生麦）●おおぐち通商店街事務所（神奈川区）●ぶらわーど杉田商店街事務所（磯子区）●バラエティたかはし屋（神奈川区）●どりーむ横浜二番館（西区）

販売してくださるお店募集中！

# 最終回 エコクッキング

田所 仁美

## 食の原点・エコロジークッキング

エコロジークッキング最終回です。約5年間、みなさまにメニューも含め食からのメッセージをさせていただけたことは、私にとって貴重な体験となり、感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございました。

私が食と向き合うようになったのは、今から20年前のこと。時代はグルメブームでした。病気をしたことがきっかけで、あたりまえの栄養学や西洋医学の力では、どうにもならず、結果、繰り返す病氣と深く向き合うことで、自然法則の大切さを知らされたことに始まります。グルメブームの時代に、自然環境に配慮した生活の提案や、安全食の必要性を語っても、誰も耳を傾けてくれませんでした。それでも揺らぐことなく、実践を重ねることで、自分の体験として、多くの方々に理解していただけたことに励まされ、今に至ります。人としての常識は、実は自然中心であるように思いました。ごみ問題や食の安全性が問われる時代がやがてやってくることも、多くの書物に記されていました。その後、じわりじわりと時代の変化が起こりました。いつの時代もおもしろいことに食の世界がつかまっています。このごろは、LOHASブームで、より自然に近い安全な食材をいただくことが、あたりまえの時代となりました。過去、たくさんのテーマを取り上げ、リサイクルデザインでもメッセージさせていただきましたが（血液さらさらクッキング・スローフード・食育・デトックス・マクロビオティックなど）、どれも目指すところは同じです。戦後60年、私たちの取り巻く環境は大きく変化し、生物として人間を考えるならば、この速い変化に身体は戸惑っているように思います。脂肪・砂糖・食品添加物の過剰摂取、それに伴うビタミン・ミネラル不足からの味覚障害・キレ行動・咀嚼回数の減少、輸入食材による食の安全性の問題など。豊かな生活や便利性の追求の結果、たくさんの社会問題を抱えることとなりました。だからこそ、今できること。それは食の知識を身につけ、食の時間を通して実践能力を身につけることです。

世界で認められている健康食である和食、日本人特有の「もったいない」の心。未来の子供たちが誇りを持って安心して過ごせる社会を作り上げる入り口として、食事はみんなが気軽に参加できる大切な時間です。食はいのちを育み、心をつちかいていく原点であることを、いつまでもお忘れなく……。

### 春キャベツのクリーム煮

#### 材料 4人分

キャベツ外葉 200g  
干しえび（水につけて戻す） 50g  
（調味料）  
a 酒 大1  
チキンスープ 400cc  
塩 小1/2  
砂糖 ひとつまみ  
b 豆乳 150cc  
水溶き片栗粉 小1  
炒め用サラダ油 大1  
お好みで コショウ 少々

#### 作り方

- 1) 鍋に湯を沸かし  
塩少々をいれ  
キャベツを手でちぎり  
さっと茹で水気をきる
- 2) 鍋にサラダ油を  
熱し 茹でたキャベツ  
干しえび（戻し汁も）  
aを入れやわらかく煮る

- 3) bを混ぜ  
2) にゆっくり  
流し入れ  
混ぜてから  
火を止める

- 4) お好みで こしょうをかける



「エコクッキング」は東京ガス株式会社の登録商標です。

### 月刊リサイクルデザインに広告を出しませんか？

『月刊リサイクルデザイン』は1994年の創刊以来、リサイクルをはじめ環境全般に関わる様々な情報や話題を発信してきました。分別収集品目を拡大した“横浜G30”の進展に伴い、横浜市内ではフリーペーパーとしてすでに定着しています。発行部数も着実に増加し、2006年3月現在で4万3000部。心豊かな暮らしに関心のある読者へ御社の声を届けるために、ぜひ『月刊リサイクルデザイン』をご活用下さい。

#### 広告募集

広告原稿は基本的には  
データ入稿ですが  
版下やフィルムでの  
入稿も受けつけています。

こちらで広告原稿を  
制作する場合は  
別途請求させていただきます。  
（個別に相談可）

#### 広告料金

| スペース  | サイズ (天地×左右)<br>単位: mm | 1回      | 12回連続     |
|-------|-----------------------|---------|-----------|
| 本文、2色 | 65×90 (基本型)           | 30,000  | 10,000/1回 |
|       | 65×180                | 50,000  | 17,000/1回 |
|       | 130×180               | 80,000  | 27,000/1回 |
|       | 260×180               | 130,000 | 43,000/1回 |

お問い合わせ横浜リサイクル事業協同組合  
TEL.045(444)2531 FAX.045(444)2532

編集室・広告担当  
竹澤まで

○容リ法改正案を閣議決定。

環境相が排出抑制推進員を委嘱

2006.3.15 環境新聞

容器包装リサイクル法の改正案が10日に閣議決定され、今国会に提出された。容器包装廃棄物に係る効果的な3Rの推進に向け、環境相が「容器包装廃棄物排出抑制推進員」を委嘱する事や事業者に対する排出抑制を促進するための措置を導入することなどが盛り込まれた。しかし、自治体、事業者、消費者などから問題点を指摘する声も依然として上がっている。

○カラス対策に黄色のごみ袋 盛岡3地区

2006.3.9 岩手日報

盛岡市は13日から、ごみ集積所を荒らすカラス対策として黄色のごみ袋を試験的に導入する。市内の3地区を対象に1カ月間使用し、効果を検証する。カラスは黄色のごみ袋の中身は見えないという。ほぼ同じ期間中に試験を行う神奈川横浜、藤沢両市と情報交換す

るなどして今後の対応を検討する。

導入する地区は城南、山岸、北厨川の3地区。計29カ所のごみ集積所で、600世帯余に黄色のごみ袋計5000枚を配布する。ごみ袋は30リットルと45リットルの2種類。可燃ごみを対象とする。

市内では、カラスにごみを荒らされる被害が相次ぎ、ごみ集積所を管理する一部の町内会では苦情が絶えないという。

市は、カラス対策としてごみにかぶせる青色ネットの普及を進めてきたが、夜中にごみを出したり、ネットの上にごみを置く人がいるため効果はまちまちだ。

全国的には既に黄色のごみ袋を試験的に導入しているが、効果はさまざま。東京都杉並区が05年に実施した調査では、被害を受けたごみ袋のうち、白色が94%だったのに対し、黄色は6%だったという。ほとんど効果がなかったケースもある。

市ごみ減量推進課の工藤雄司課長は「黄色のごみ袋が盛岡でも効果があるか検証したい。市としてごみ袋を指定しておらず、

効果があってもすぐに導入とはならないが、町内会などと協議していきたい」としている。

○レジ袋の使用抑制を命令

容リ法改正案が判明 2006.2.16 共同通信

環境省が今国会に提出する容器包装リサイクル法（容リ法）改正案が16日、明らかになった。有料化などを通じてレジ袋の使用を減らす努力が足りない一定規模以上のスーパーなどに国が改善を勧告、命令する制度を導入するのが柱だ。勧告などに従わない業者には名前を公表、50万円以下の罰金を科す罰則も導入した。

また、容リ法で義務付けたりサイクル費用を支払わない「ただ乗り事業者」への罰金は50万円以下から100万円以下に引き上げる。3月上旬に閣議決定、2007年度の施行を目指す。

改正案では、レジ袋、紙製やプラスチック製の手提げ袋を配布するスーパーや百貨店など使用抑制が必要な業種を政令で指定。

新連載

18区に間く!

G30の

わがまち自慢

その1

これまでの取り組み

「柏尾川周辺のごみ拾いを、ボランティアの皆さんと一緒に続けてきました。もうずいぶん長いことやっています。ごみが減る、街がきれいになる、すると、わが街を愛する気持ちも育ちますね。区民が何を求めているのかをていねいにすくい取って、行政と一緒に働く、つまり協働です。これが大事だと思っています」と館野さん。17年度は、資源循環局戸



川と緑の街・戸塚区編

(地域振興課/館野さんのお話)

戸塚区は、面積と流れる河川の長さが市内一。緑濃く、さわやかな水辺に恵まれた地域です。毎年、柏尾川沿いがピンクに染まるこの桜の季節は、戸塚区民がいっせいに心浮き立つところでもあります。

塚事務所からの情報を受け、連携してG30の中でも特に紙の分別の徹底に取り組んできました。資源集団回収を行う地域が増えた結果、古紙回収量は16年よりも3割以上増し、家庭ごみはその分大幅に減りました。

17年度中に10回以上催行した“リサイクルミステリーツアー”も好評で

した。これは、資源となる物がどんなふうになりサイクルされているのかを区民に知ってもらおうというイベント。“資源として有効利用されている”と知ったうえで分別するなら、区民のやる気どやりがいも生まれるはず、という発想からの企画は大当たりで、毎回申し込みが殺到しました。

18年度もやっぱり紙と川が大命題

「これからも紙やカン、びん、ペットボトルなどわかりやすい物の分別をPRしG30を進めるとともに、戸塚区の宝である水辺と緑を守る活動を支援していきたいですね。今後、地域の方々とともに「川と緑の街づくり清掃ウォーク」というイベントを開催したいと考えているのですが、どうなりますか（笑）。清掃活動と水辺の生き物観察などを組み合わせて、楽しみながらきれいな街づくりと自然環境の豊かな街の再発見を図るイベントです」

イベントとしては、さらに大きな構想

があります。少し昔のエコな暮らしを再現し、これからの時代のエコな暮らしを想像し表現する“エコ・時代祭”です。さて、実現できるでしょうか？

好評を得たりサイクルミステリーツアーも引き続き年間計画に入っているそうなので、区報のイベント情報を要チェック!です。

最後に、館野さんから戸塚区民のみなさんにメッセージ。「G30の達成は市民一人ひとりの協力あればこそ、ご協力ありがとうございます」

それ行け!  
りくみちゃん 作・勝野真美 【第16話】



Mr.リサイクルの3Rバンサイ



合言葉は「もったいない」

キャンペーン  
第1弾

リサイクルデザインでは2006年4月～2007年3月までの1年間、“合言葉は「もったいない」♪キャンペーン”をおこないます。

今後、“合言葉は「もったいない」♪”をキーワードに、さまざまなイベントやプレゼント等を実施いたしますので、どうぞご期待下さい!!

“合言葉は「もったいない」♪キャンペーン”第1弾は小学校限定。

リサイクル教室の出張サービス“出前講師”では、平成18年4月以降にお申し込みいただいた方を対象に「もったいない達人認定書」と「リサイクルデザインじゅうちょう」を先着3000名の小学生にプレゼントします。

「もったいない達人認定書」ゲット! までの道

リサイクルデザインに  
“出前講師—もったいない達人認定編”  
の申し込みをする

お電話どうぞ  
TEL 444-2531

出張リサイクル教室当日  
受講者に認定証明として  
「もったいない達人認定書」を授与

記念品として  
「リサイクルデザインじゅうちょう」  
をプレゼント

これであなたも  
「もったいない達人」



- ・横浜市内の小学校が対象です。
- ・受講者は1年～6年生までです。
- ・クラス単位もしくは学年単位でお申し込みください。
- ・数に限りがありますので、全校生徒での申し込みはご遠慮ください。

行ってきました

3月6日(月) 13時～15時 都筑公会堂

北  
部  
方  
面  
環  
境  
フ  
ェ  
ス  
タ



今までそれぞれ独自にG30の啓発活動をしてきた4区(都筑・港北・緑・青葉)の資源化推進担当と資源循環局事務所が、初めて協働で「北部方面環境フェスタ」を開催しました。

ロビーでは、G30の各地区の取り組み紹介、収集車を模した啓発ビデオコーナー、リサイクル品の展示などがあり来場者が熱心に見入っていました。

ステージでは、資源循環局の職員バンドがリサイクル品の楽器で、ベンチャーズの曲を披露。艶のある音色に、会場も手拍子で盛り上がりしました。

第二部は武蔵工業大学環境情報学部助教授、萩原なつ子さんが「地球の環境問題について」を講演。ユーモアを交え、わかりやすく、「環境問題を考えるときには、発想の転換が必要である。まず身近な環境を見つめよう。そして楽しく、小さな一歩から取り組もう」と語りました。

その後、青葉リサイクルプラザに出された籐製の棚など、リサイクル品10点を格安で抽選販売。4区協働のイベントは盛況のうちに幕を閉じました。

## も っ た い な い **MOTTAINAI**を合言葉に 植林活動を実践する

ノーベル平和賞 受賞者

# ワンガリ・マータイさん 横浜市を訪問

ノーベル平和賞を受賞したケニアのワンガリ・マータイさんが、2月15日横浜を訪問しました。最初の訪問は、横浜国立大学のキャンパス。キャンパスの一角にはゴルフ場跡地に植樹をして育てた森があります。ここで、マータイさんは宮脇昭同大名誉教授をはじめ、出迎えた学校関係者や学生、子どもたちと一緒に200本の苗木を記念植樹しました。その後、みなとみらいのパシフィコ横浜でのシンポジウム、子どもたちとの交流、クイーンズサークルで開催された作文コンクール入賞児童とのトークショーに登場し、会場の市民にさわやかな笑顔とMOTTAINAI旋風を残しました。

シンポジウム

## マータイさんと語ろう ～MOTTAINAIで世界を変える～

●主催：毎日新聞社 ●共催：神奈川県、横浜市 ●後援：横浜国立大学、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会

みなとみらいのパシフィコ横浜で開かれた、シンポジウムには、超満員の約550人が参加しました。基調講演でマータイさんは小池百合子環境大臣から贈られた、ペットボトルのリサイクル製品「もったいないふろしき」を披露し「日本の天才的な技術です。FUROSHIKI（ふろしき）を世界に広めたい」と称賛しました。

基調講演ではマータイさんの環境活動、植樹・植林を始めた経緯と弾圧にもめげず続けたこと、特に平和と環境の3本柱（①人間への尊厳と法の統治を尊重する良い統治 ②持続可能で責任ある資源の管理と平等な分配 ③平和に向かっての意図的な努力）の重要性を説き「このうち一つが欠けても平和や発展はあり得ない」と力説しました。また、環境活動の合言葉になった「もったいない」という言葉は、昨年来日した折に新聞社の取材を受けた時に会ったと話し、「素晴らしいと思ったのでこの言葉を全世界に向けて語ってきた。MOTTAINAIは日本文化に深く根ざした非常に

豊かな概念だ」「皆さんも一人一人ができるMOTTAINAIを実践してほしい」と語りました。

マータイさんの講演を受けてシンポジウムではパネリストの3人がそれぞれの環境の取組について話しました。松沢成文神奈川県知事は、地球環境を改善するには全員が生活スタイルを変えなければと神奈川県では「マイアジェンダ運動もったいないバージョン」を始めたことを、中田宏横浜市長は横浜市のG30について触れ、「個人が責任のとれる社会にするための仕組み作りが行政の役割。横浜市はG30の推進により、平成17年12月末までに33%のゴミが減った、一緒に行動しましょう」と話しました。植樹の専門家である宮脇横浜国大名誉教授はマータイさんの植林活動の話から「マータイさんは行動しながら、考える。私はそれをとてども尊敬している。これからも土地本来の命の森を作ること世界に発信していただきたい」と結びました。



パシフィコ横浜でのシンポジウムにて（第2部の様子）



77年にグリーンベルト運動を創設。農村女性に植樹を通じた社会参加を呼びかけ、延べ8万人が参加、植樹した木は3000万本にのぼる。環境保護と民主化への取組が評価され、04年環境分野で初のノーベル平和賞を受賞。ケニア出身であり、アフリカ人女性でも初の受賞となった。

この後の第2部では、横浜市内でのもったいない運動をしている子どもたちがマータイさんと交流しました。西区の「もったいない探偵団」の14人と緑区でアルミ缶回収を15年前から続けている市立長津田第二小学校の5年生15人がそれぞれの取組を報告。オレンジ色のドレスと同じ布の髪飾りをつけたマータイさんは素敵な笑顔で子どもたちに声をかけ、握手し、頭をなでていました。子どもたちは「格好良い!」「元気でびっくり!」「マータイさんのように権力に負けずに活動したい」と興奮ぎみでした。

## 「子どもたちからMOTTAINAIを!～マータイさんを囲んで」

午後6時から、みなとみらいクイーンズサークルで、県主催のもったいない作文コンクールに入賞した児童・生徒とマータイさんのトークショーが開かれました。会場では、買い物客など150人あまりが、子どもたちの作文やマータイさんのメッセージに熱心に耳を傾けていました。ここでも子どもたちはマータイさんに会って感謝し、「オーラがあった」「マータイさんが紹介してくれたふろしきを使ってみよう」と話しました。



## INFORMATION INFORMATION INFORMATION INFORMATION

### 編集室から

今月の広報委員会は少し遅めの新年会を兼ねて開きました。待望の新人さんを広報委員会に迎え入れ、ますます活気づいています。今年度は、「読者のみなさんにより興味を持っていただけるような特集（内容はお楽しみに）」「発行部数を五万部（現在四万三千部）」「HPの充実」「りくみちゃんグッズの種類を増やす」を目標に、クオリティーの高いみなさんに読みやすい誌面を目指して頑張っています。一致団結した新年会になりました。請ってください。

### 月刊リサイクルデザインは次の場所に置いてあります

●マリンスポーツデスク・リップル（鶴見日新ビル2F）  
●グリーンバザール（南区六ツ川）●地酒 篠原屋（港北区篠原）●神奈川銀行瀬谷支店・本牧支店●損保ジャパン横浜支店●東京ガス環境エネルギー館●マルエツ井土ヶ谷店・大倉山店●相鉄ローゼン三ツ境店・港南台店・大口店・二俣川店・緑園都市店・いずみ中央店・山手台店・白根店・モザイク港北店・六ツ川店・釜利谷店・和田町店・左近山店・瀬谷店・いずみ野店・弥生台店・笹山店・東寺尾店・ひかりが丘店・希望が丘店・並木店・南まきが原店・中田店・南瀬谷店・ひなた山店・磯子店・オルト新子安店・十日市場店・上星川店●マイカル天王町サティ店●ジャスコ駒岡店・金沢シーサイド店●カフェ社（港北区日吉）●うどんカフェ（青葉区こどもの国）●リサイクルショップ「トロワの森」●横浜国立大学生活協同組合大学会館店・工学部店●神奈川県中小企業団体中央会（中区尾上町）●リセールショップ遊民●WEショップ旭●WEショップかながわ大口店●WEショップかながわ六角橋店●WEショップこうほく●WEショップほどがや天王町店●WEショップちがさき店●WEショップちがさき十間坂店●リサイクルショップブランカスタ（西区）●WEショップ・あおばあざみ野南

### ●リサイクル標準価格表

2006年2月現在 日経2/23

| 品名        | 買入価格     | 業者の売値  |
|-----------|----------|--------|
|           | 1キロ当たり   | 1キロ当たり |
| 新聞        | 0円       | 5.5～6円 |
| 雑誌        | 0円       | 3.5円   |
| 段ボール      | 0円       | 4～5円   |
| 衣類くず      | 設定不能     | 0～1円   |
| アルミ缶      | * 10～15円 |        |
| 小学校アルミ缶回収 | 40～60円   |        |

- ★集団回収には「買入価格」を適用  
\*スチール缶と選別済の価格
- ★500キロ以上集団回収する団体の適用価格です。  
取引条件により多少変化します。
- ★事業所から発生したものは集団回収の対象になりません。  
事業所ごとに業者と直接ご相談ください。
- ★集団回収以外の段ボール回収は、1回3000円以上の手数料がかかります。段ボールは必ず束ねて出してください。
- ★小学校アルミ缶回収は、100kg以上の場合・小学校のみ適用。専用の回収袋を使用。現金化のほかにも車いす（250kgで）にも交換できます。

### 月刊 リサイクルデザイン No.139

発行所：横浜市資源リサイクル事業協同組合 〒221-0054 横浜市神奈川区山内町13番地 TEL 045-444-2531/FAX 045-444-2532（編集室）  
発行日：2006年3月25日 発行人：秋元康男 編集人：工藤健一 編集室：戸川孝則・竹澤留美  
広報企画委員会：山岡秀明・武松昭男・松澤嘉継・杉山宜利・芦澤博志・宗村隆寛・栗原清剛・大内 敦・船崎 健 制作：（企）エコ・アド 印刷：（株）横浜プリント

### 牛乳パック100%の リサイクルデザイン・ ボックスティッシュ

一度使ったティッシュはリサイクルできず、ごみになってしまいます。だからこそ、  
ティッシュペーパーには再生紙がおすすめです。



#### 価格表

|         |                    |
|---------|--------------------|
| 1～4ケース  | 1ケース 3,675円（送料・税込） |
| 5～10ケース | 1ケース 3,570円（送料・税込） |
| 11ケース以上 | 1ケース 3,465円（送料・税込） |

（1箱200組400枚入り／1ケース50箱入り）

注：ご注文は1ケース以上でお受けします。

注：市外へのお届けは別途送料がかかります。

ご注文は

**FAX 045-444-2532**

### 『リサイクル今とむかし』リサイクルデザイン 別冊

月刊リサイクルデザインでは、2003年1月の100号記念号で「リサイクルの今と昔」を特集しました。好評につき、その内容をいちだんと豊富にして構成し直し、あらためて、月刊リサイクルデザイン別冊『リサイクル 今とむかし』を発刊しました。イラストを使って、子どもたちに分かりやすく、江戸時代のリサイクルから現在のリサイクルまでを紹介しています。

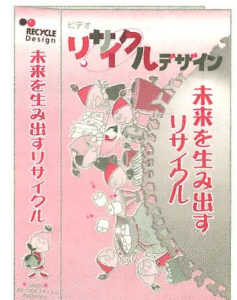


※グリーンバザール（南区六ツ川）に置いてあります

価格 **350円（税込）**  
フルカラー24頁  
※送料は別料金になります

### リサイクルデザインのビデオ 「未来を生み出すリサイクル」

このビデオは、暮らしの中から出る資源物（古紙・空きカン等）がどのようにリサイクルされているかを、一人の小学生の目を通して見ていく様子が描かれています。ぜひリサイクルの学習等にご活用ください。



#### 詳しいことは

横浜市資源リサイクル事業協同組合  
TEL 045-444-2531  
FAX 045-444-2532